

2025年3月19日

東海旅客鉄道株式会社

2025年度重点施策と関連設備投資について

本年度も、鉄道の原点であり、全ての施策の大前提となる安全の確保を最優先として、社員一人ひとりが日々の業務に真摯に取り組むとともに、訓練等を通じて能力・技術を向上させます。その上で、生活様式や働き方の変化によりニーズが多様化していることや、労働力人口の減少により業務のあり方の変革が求められていることなど、当社を取り巻く環境の大きな変化を踏まえ、飛躍的に進化しているAIを含め最新のICT等の技術を活用して効率的な業務執行体制を構築する「業務改革」と新しい発想による「収益の拡大」の2つを柱とした経営体力の再強化に取り組めます。

また、これまで蓄積してきた知識や経験を活かすとともに、当社グループの「ありたい姿」を踏まえて「自由に考え、大いに議論し、粘り強くやり抜く」という企業文化を作り上げ、過去のやり方に捉わられることなく前例のないことにも挑戦しながら、中長期的な観点で各種施策を力強く推進します。

これらにより、「日本の大動脈と社会基盤の発展に貢献する」という「経営理念」をより高いレベルで実現します。

1. 重点施策（別紙参照）

- 安全・安定輸送の確保
- 輸送サービスの充実
- 超電導リニアによる中央新幹線計画の推進
- 超電導リニアの技術開発によるコストダウン及びブラッシュアップ
- 営業施策の強化
- グループ事業の推進
- 技術開発の推進、高速鉄道システムの海外展開
- 持続可能な社会の実現に向けた取り組み

2. 設備投資額

連結：7,350億円、単体：6,660億円

※中央新幹線関連の設備投資額：3,500億円

中央新幹線関連を除いた設備投資額（単体）：3,160億円、うち安全関連投資：2,130億円

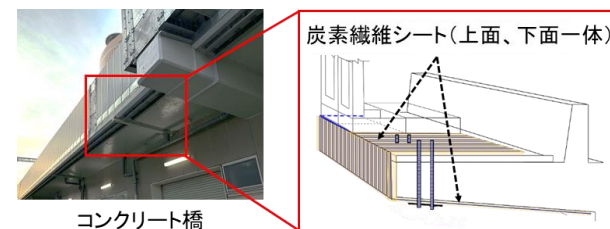
(設備投資額：1,510億円 ※安全関連投資は全体で2,130億円)

地震対策をはじめ構造物のさらなる強化に取り組みます

- 東海道新幹線の**脱線・逸脱防止対策**として脱線防止ガードの全線への敷設等を進めるとともに、プラットホーム上家の耐震補強、駅の吊り天井の脱落防止対策、名古屋車両区検修庫の建替、在来線の高架橋柱の耐震化等を進める。
- 東海道新幹線の**大規模改修工事**について、技術開発成果を導入し、施工方法を改善するなど、不断のコストダウンを重ねながら着実に進める。
- 半田駅及び沼津駅付近の連続立体交差化に向けた工事を進める。



脱線防止ガード



コンクリート橋

炭素繊維シート(上面、下面一体)

大規模改修工事

自然災害等への対策に取り組みます

- ハザードマップ等を踏まえ、鉄道設備の浸水対策を進める。
- 台風や豪雨等により列車運行に大きな影響が予想される場合に、安全を最優先に**適切な運行計画の決定、適時かつ的確な旅客案内情報の提供**を行う。
- 自然災害や不測の事態等の異常時に想定される様々な状況に適切に対応するため、**実践的な訓練**を繰り返し実施するとともに、近年中に更新する予定の一部車両を除き、名古屋駅を発着する全ての当社車両への車内防犯カメラの整備を進めるなど、ハード・ソフトの両面から**車内のセキュリティ対策**に取り組む。



大規模復旧訓練

(参考) ・脱線防止ガード敷設：2025年度 約56km ・大規模改修工事：2025年度 130億円 (2024～2028年度 (IV期) 500億円)
 ・プラットホーム上家の耐震補強：東海道新幹線 16駅、在来線 24駅 (2021～2033年度 (連続立体交差化を実施する沼津駅は2041年度))
 ・駅の吊り天井の脱落防止対策：東海道新幹線 全17駅、在来線 30駅 (2016～2026年度)
 ・浸水対策 (在来線)：指令設備等重要施設への防水板、防水扉の設置等 (2024年度～)

輸送サービスの充実（1）

（設備投資額：750億円 ※(1)(2)計）

大阪・関西万博に対応した輸送の完遂、「のぞみ12本ダイヤ」の活用、 N700S・315系の投入等、輸送サービスの充実に取り組みます

<東海道新幹線>

- ・ 2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）に対応した輸送を完遂する。
- ・ 「のぞみ12本ダイヤ」を活用して、需要にあわせた弾力的な列車設定を行う。
- ・ N700Sの投入を進めるとともに、新たな営業車検測機能を有するN700Sの追加投入に向けた詳細設計を進める。



N700S



大阪・関西万博ラッピング新幹線

<在来線>

- ・ 「しなの」、「ひだ」等の特急列車について、需要にあわせた弾力的な増結や増発を行う。
- ・ 通勤型電車315系の投入を進めるとともに、新型特急車両385系量産先行車の新製に向けた詳細設計を進める。



通勤型電車315系



新型特急車両385系量産先行車の
デザインイメージ

（参考）・ N700S：2025年度 7編成投入（2020～2028年度 76編成投入）
・ 315系：2025年度 56両投入（2021～2025年度 352両投入）

輸送サービスの充実（2）

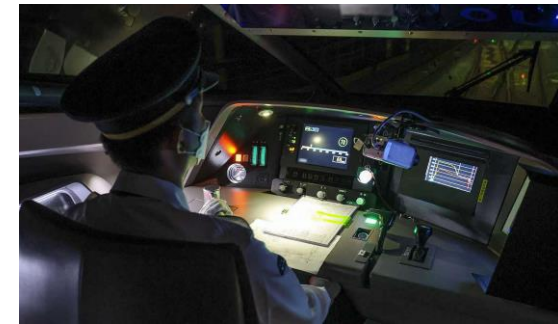
より便利に安心して鉄道をご利用いただけるよう設備の整備等を進めます

<東海道新幹線>

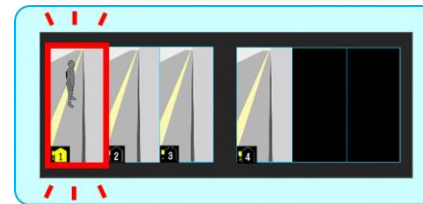
- ・全駅への可動柵整備に向けた詳細設計を進めるとともに、自動運転システム（GOA2）の導入に向けた開発を進める。

<在来線>

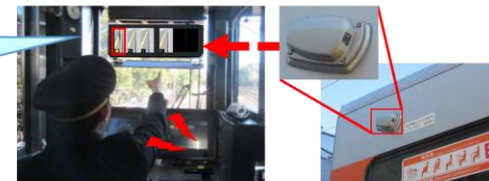
- ・名古屋駅で中央本線ホームへの可動柵設置工事を進めるとともに、刈谷駅でホームの拡幅、可動柵設置等に向けた工事を進める。
- ・駅におけるバリアフリー設備の整備について、国・関係自治体と連携しつつ取り組む。
- ・車両側面にカメラを設置した315系4両編成に、お客様の接近等を検知する画像認識技術を活用した安全確認支援装置を搭載し、ワンマン運転を開始する。
- ・TOICAエリア及び「お客様サポートサービス」の導入駅を拡大するとともに、「ひだ」を対象とするチケットレス化を行う。また、2026年春以降のモバイルICサービスの導入に向けた準備を進める。



東海道新幹線の自動運転走行試験



検知時のモニタ表示イメージ



車両側面に設置したカメラ

画像認識技術を活用した安全確認支援装置による検知イメージ

(参考)・GOA2

：鉄道における自動運転のレベル別の分類のうち、運転士が乗務し、列車起動、緊急停止操作、避難誘導等を行う形態

・TOICAエリア拡大

：身延線（鯉沢口～甲府）

・「お客様サポートサービス」の導入駅拡大

：東海道本線（沼津～興津）

・「ひだ」を対象とするチケットレス化

：「ひだ」のチケットレス特急券を発売するとともに、下呂・高山・飛騨古川の3駅において、「ひだ」利用時にTOICAを利用可能とする

超電導リニアによる中央新幹線計画の推進

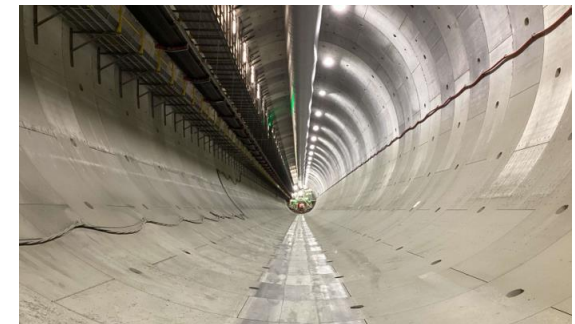
(設備投資額：3,500億円)

工事の安全・環境の保全・地域との連携を重視し、 沿線各地で工事を精力的に進めます

- 中央新幹線計画について、コストを十分に精査し、柔軟性を発揮しながら、**健全経営と安定配当を堅持**し、プロジェクトの完遂に向けて、着実に推進する。
また、工事の安全・環境の保全・地域との連携を重視し、**中央新幹線の早期開業に取り組む**。
- 用地取得等、並びに山岳トンネル、都市部トンネル、駅等の土木を中心とした**各種工事を精力的に進める**。
このうち、駅について、山梨県駅（仮称）の工事に着手し、品川・名古屋間の全ての駅で工事を進める。
機械及び電気設備等については、契約及び発注時期も考慮の上、低コスト化及び品質向上を図る。
- 南アルプストンネル静岡工区について、国土交通省の有識者会議の水資源及び環境保全に関する報告書を踏まえ、引き続き、トンネル掘削工事の早期着手に向けて、**地域の理解と協力を得られるよう、双方向のコミュニケーションを大切にしながら、真摯に取り組む**。



南アルプストンネル（山梨工区）
本線トンネルの掘削



第一首都圏トンネル（梶ヶ谷工区）
本格的な掘進



大井川流域8市2町における
大井川の水を守るための取組みに関する説明会

超電導リニアの技術開発によるコストダウン及びブラッシュアップ

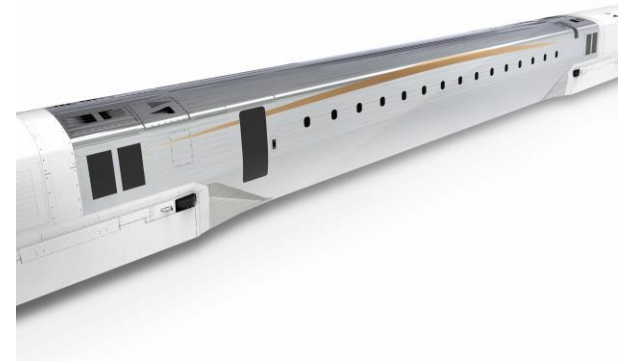
(設備投資額：40億円)

超電導リニアの技術開発によるコストダウンとブラッシュアップに取り組みます

- ・ 高温超電導磁石について、営業車両への投入を前提に一層のコストダウンを進めるとともに、安定運用に向けたさらなる検証を進める。
- ・ 最新のICTを活用した効率的な運営体制の実現に向けた開発において、AI等による画像やビッグデータの分析システムの改良・実証等を進める。
- ・ 山梨リニア実験線において新しいL0系改良型試験車を投入し、それにより得られるデータも活用しながら営業車両の仕様策定を進め、設計を深度化する。
- ・ 走行試験を着実に行う中で、高付加価値なサービスの追求を行うとともに、様々な形で超電導リニアの体験乗車を実施し、中央新幹線の開業に向けた期待感の醸成に取り組む。



L0系改良型試験車



新しいL0系改良型試験車のイメージ

- (参考)・山梨リニア実験線における走行試験：累計走行距離 約513万km (2025年2月末まで)
- ・ 高温超電導磁石：液体ヘリウム等を用いることなく、従来より高い温度で超電導状態を実現できるため、構造の簡素化や省メンテナンス化が可能
 - ・ 新しいL0系改良型試験車の特徴：環境負荷低減(車体表面へのリフレットフィルム適用、台車周りの形状最適化)、高温超電導磁石専用設計

営業施策の強化

(設備投資額：360億円)

東海道新幹線のネット予約を多くのお客様にご利用いただけるよう取り組みます

- 「E Xサービス」について、利便性を向上させるとともに、「E X旅パック」、「E X旅先予約」で予約できるプラン等を充実させる。

需要喚起策により鉄道のご利用及び収益の拡大を図ります

- 「**押し旅**」キャンペーンや「**貸切車両パッケージ**」をはじめとする営業施策を積極的に展開する。また、京都、奈良、東京、静岡、飛騨等、魅力ある**観光素材の開発**に継続的に取り組む。
- 東海道新幹線の出張利用を促すとともにM I C Eを誘致するなど、**ビジネス需要の獲得に向けた取組み**を進める。
- 訪日外国人に対して、国や地域ごとの旅客動向や商品のご利用の分析を進め、**より効果的な宣伝を展開**するとともに、**旅行会社との連携強化による販路の拡大に取り組む**など、営業施策を強化する。
- 大阪・関西万博が開催されることを契機として、**関西方面の旅行商品等を拡充**するとともに、**訪日外国人に対し当社沿線の魅力を発信**する。
- 「会いにいこう」キャンペーンを通じて会うことの価値を訴求する。
- 「さわやかウォーキング」等を通じて地域との連携を強化し、鉄道のご利用の拡大を図る。
- 2026年度以降の**東海道新幹線への上級クラス座席の導入に向けた準備**を進める。



東京方面の観光キャンペーン
「#東京ゾクゾク」



関西方面の旅行商品等を紹介する
ウェブサイト

グループ事業の推進

(設備投資額：695億円 ※うち連結子会社の設備投資額は690億円)

グループ事業に携わる社員の熱意と能力を高めるとともに、様々な取組みを通じて収益力の拡大を図ります

- ・当社グループの共通ポイントサービス「**TOKAI STATION POINT**」について、データマーケティングの強化を進め、グループ事業と鉄道事業の双方の収益拡大を図る。
- ・駅売店等について、品揃えの充実により**便利で魅力ある店舗づくり**を進める。
- ・JRセントラルタワーズとJRゲートタワー等の駅ビル事業について、店舗の品揃え強化やサービス向上に取り組むとともに、**JRセントラルタワーズの開業25周年にあたり、これまでのご愛顧に感謝を示す記念キャンペーン等を実施する。**また、**東京駅・名古屋駅等の駅商業施設を拡張・リニューアルする。**
- ・「**コートヤード・バイ・マリオット京都四条烏丸**」の開業、「**コートヤード・バイ・マリオット京都駅**」、「**ホテル 寧 奈良**」の**計画推進**等の沿線不動産の開発や、当社グループ保有土地の有効活用を進める。また、第1号私募ファンドの組成等の不動産ファンド事業への参入に向けた準備を進める。
- ・東海道新幹線「**こだま**」号の業務用室を活用した法人向け荷物輸送サービス「**東海道マッハ便**」について、サービス提供区間を拡大するとともに、JR各社とも連携しながら、新たな需要創出に取り組む。



JRセントラルタワーズ開業25周年のロゴマーク



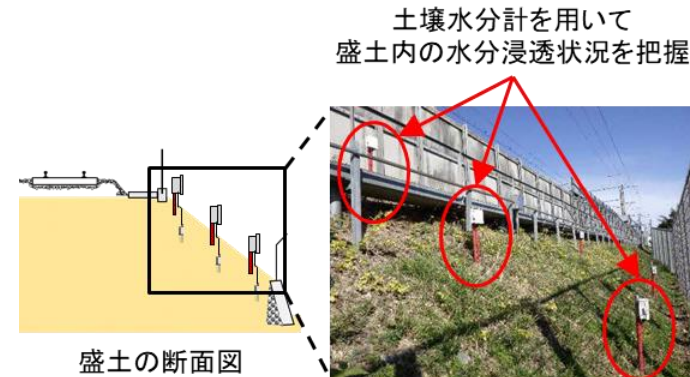
「コートヤード・バイ・マリオット京都四条烏丸」(2025年8月開業予定)の客室イメージ

技術開発の推進、高速鉄道システムの海外展開

(設備投資額：5億円)

安全とコストダウンに資する技術開発を推進します

- 地震発生時に列車を早期に停止させるためにブレーキ力を強化するなど、**地震に対する安全性を高めるための技術開発**を進める。
- 豪雨時における最適な運転規制に繋げるために、営業線盛土の一部区間において降雨時の土中の水の分布を詳細に把握するモニタリングを実施し、盛土の性能評価を行った上で対策工法を検討するなど、**豪雨に対して安全性を最優先に安定性も高めるための技術開発**を進める。
- 車内通信環境の改善や新たな車内サービスの実現に向けた技術開発を進める。
- 状態監視技術等を活用した検査や保守の高度化・省力化、設備の維持更新におけるコストダウン等**による「業務改革」の推進に向けて、社内横断的に課題解決に取り組む。特に、AIやデータ・画像分析技術等について、当社の業務に最適な形で導入するための準備を進める。
- グループ会社を含めて、労働力人口の減少等に対応するため、**ロボット制御等の先端技術の活用**を進める。



豪雨に対して安全性を最優先に安定性も高めるための技術開発の例
(営業線盛土の一部区間におけるモニタリング)

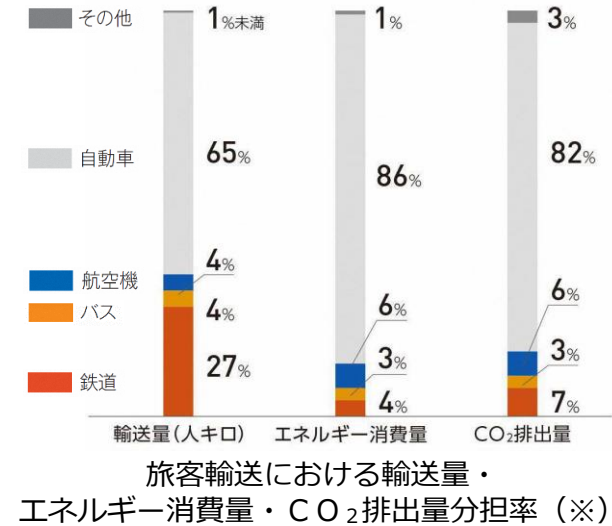
高速鉄道システムの海外展開に取り組みます

- 米国における高速鉄道プロジェクト**について、着実に取り組む。
- 台湾における高速鉄道について、**N700Sをベースとした新型車両導入や各種設備更新に伴う技術コンサルティング**を進める。
- 日本型高速鉄道システムを国際的な標準とする取組みを進める。

持続可能な社会の実現に向けた取組み（1）

地球環境保全等の持続可能な社会の実現に向けた取組みを推進します

- 政府による「2050年カーボンニュートラル」政策を前提に**2050年のCO₂排出量実質ゼロを目指す**など、地球環境保全に資する諸施策を推進する。また、鉄道各社と連携しながらPRを強化するなど、**鉄道の環境優位性への社会的な理解を広め、鉄道のご利用を促進**することで、脱炭素社会への移行に貢献する。
- 「エクスプレス予約」法人会員に対する、東海道・山陽・九州新幹線におけるCO₂排出量実質ゼロ化サービス「GreenEX」の導入企業を拡大する。
- 「東海道新幹線再生アルミ」の活用等、廃棄物の削減や資源の再利用等を通じて、地球環境への負荷を低減する。



東海道・山陽・九州新幹線におけるCO₂排出量実質ゼロ化サービス「GreenEX」のロゴマーク



「東海道新幹線再生アルミ」の活用例
(マンションの建材や東海道新幹線岐阜羽島駅の外装に活用)

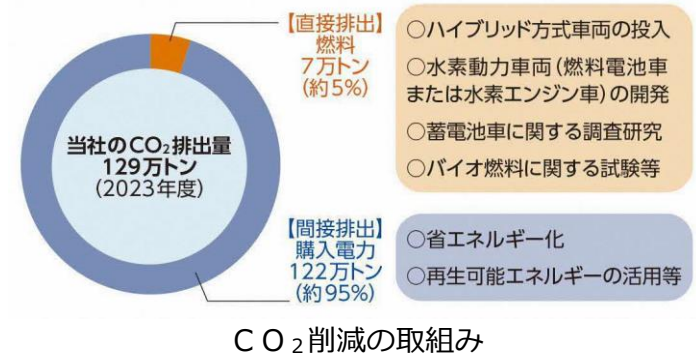
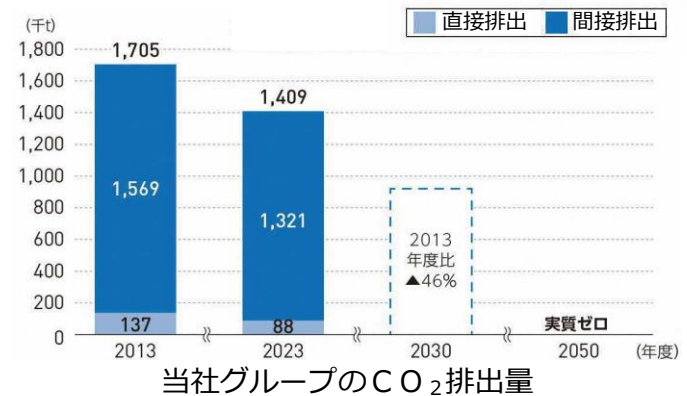
持続可能な社会の実現に向けた取組み（2）

＜燃料の使用により直接排出されるCO₂＞

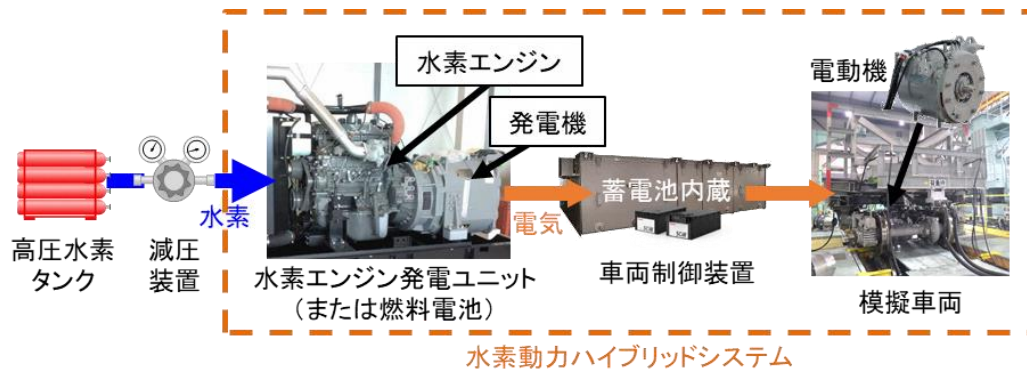
- ・ 模擬走行試験を通じて、**水素動力車両（燃料電池車、水素エンジン車）**に関する開発を進める。
- ・ 蓄電池車及びカーボンニュートラル燃料について、調査研究を継続する。

＜電気の使用により間接的に排出されるCO₂＞

- ・ N700S及び315系といった**省エネルギー車両**の投入を進めるとともに、**省エネルギー運転に資する技術開発**を進める。
- ・ **防音壁へのペロブスカイト太陽電池の適用を検討**するなど、再生可能エネルギーの活用に取り組む。



CO₂削減の取組み



水素動力ハイブリッドシステムの構成



実証実験中のペロブスカイト太陽電池付き防音壁